

1 学校教育目標

4 総合的な学校関係者評価

<p>ふるさとを愛し 自ら学び 未来を切り拓く 広谷っ子の育成 ～「明日もまだ行きたい」と心待ちにする学校～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・このような教育を受けることができる子どもたちは幸せである。 ・HPをほぼ毎日更新されていることは、なかなかできることではない。職員研修などによりスキルアップを図りタブレットを多く導入した授業で児童の活用能力の向上など成果を出されている。時代に合った取り組みをされていることを評価したい。 ・今年度は、150周年事業にうまくリンクさせて、学校運営を進められ、子どもたちも活き活きと学校生活を過ごせていたように感じた。 ・広谷小の教室は小さめなので、30名を超えること（高学年は特に）手狭な感じがした。これは仕方ないが、クラス数も減ってくるので、ハーフ授業とかを増やすことができたらなお考える。 ・今後、特別支援学級の児童が増え、一律の指導ではいけないことも予想できる。学校としての受け入れ体制を整えておく必要があるのではと思う。 ・学校教育目標、めざす具体像の実現にむけて、先生方が精力的に取り組んでいる様子が伺える。近年、自主性や多様性、またIT化への対応など先生方が少し窮屈になっているのではないかと感じている。先生方が教育者である前に一人の人間として充実していることが結果として子どもたちにも良い影響を与えらると思う。そのような意味で年休取得率も向上していることは良い傾向と考える。 ・目指す方向には、しっかりと進んでいるように思われる。 ・1番は子供たちの自主性や個性を最大限に活かせるような取組が実施されている点であり、さらにそうあんの日の評価点見直しなどにより昨年度より、子どもたちのモチベーションや学校に行こうという気持ちが高まり、褒めてもらいやすい環境に確実に変わっている点が非常に良い。その中でも子供たちの安全や、教職員のワークライフバランスも考慮した取組が実施出来ており、総合的な学校としての評価はA評価と考える。
<p>2 めざす具体像</p> <p>〇めざす子ども像 ①「強く」ねばり強く主体的に実践する児童 ②「正しく」自ら学び個性を伸ばす児童</p> <p>③「美しく」こころ豊かで思いやりのある児童</p> <p>〇めざす学校像 ①温かさと活気に満ちた学校 ②学べ楽しさを感じる学校 ③信頼され、安心・安全な学校</p> <p>〇めざす教職員像 ①信頼される教職員 ②教育愛に燃える教職員 ③研修に励む教師</p>	
<p>3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善) 太字は改善方策です。</p>	

分野	評価項目	取組状況	学校の取組状況・改善の方策	学校自己評価の適切さ
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・「明日もまだ行きたい」と思う学級や学校にすることができたか。 ・「地域とともにある学校づくり(含むコミュニティスクール)」を推進できたか。 ・チーム広谷の一員として、協働的に仕事ができただか。 ・創立150周年、感染症対策等、時々の課題に対応し、取り組めたか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「きら星」の取組を全校的に進め、800近い星が見つかった。校長室前に「推しきら星」として優秀な内容を掲示し、保護者向けには「きら星通信」として月ごとにまとめ、ホームページで発信した。また、各学級でも独自に取組を展開し、友だちの良さやがんばりを認め合える支持的風土が一層育ちつつある。 ・地域での見守り活動や除雪などのボランティアなど、子どもを支援していただけた。「広谷っ子育て隊」には、現在11名の方に応募いただけており、サツマイモの栽培、九九の聞き取りなど、のべ33名の方に協力を頂いた。また、本年度は、第4水曜日の午後15時からスーパーそうあんクラブを設定、グラウンドゴルフは広谷と浅野、卓球は広谷小体育館で実施した。のべ81人の児童が参加し、地域の方と交流する機会となった。 ・全職員が共通理解をしながら、体勢を組んで対応し、1つ1つの課題に取り組むことができています。あらゆる教育活動や学級経営など、積極的に情報を交流しながら、チーム広谷として仕事を進めることができた。職員の協働的な姿勢がこれを可能にしている。 ・「子どもと創る150周年」を年間の軸として教育活動を展開することができた。各クラスの学級活動で日頃から自主的、主体的な取り組みを推進したことが全体の行事等につながった意義は大きい。新型コロナウイルス、インフルエンザ等、感染症に引き続き対策を講じた。「慣れ」からくる緩みがあったのか、何度か休業措置に至ったのは反省点である。換気、消毒、手洗いなど、基本的な感染対策の徹底を継続したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力があることが盛り沢山でよい方向である。 ・コミュニティスクールの推進のため「広谷っ子育て隊」を募集され、サツマイモ栽培、九九の聞き取りなどに協力いただいたことを今後も継続、推進されたい。校区自治協議会とも連携してしながらグラウンドゴルフ、卓球などで児童と地域の方と交流することを継続されたい。 ・きら星の取組では、友だちのよさ、頑張りをお互いに認め合える子ども達が増えつつあり、よかった。 ・地域での見守り、子ども達の支援に対しても児童が参加することで地域の方の喜びにつながったと思う。 ・元気で、お互い認めあおうとする子どもたちを見るにつけ、学校の取り組みが伝わってくる。 ・コミュニティスクールの取り組みは、地域コーディネーターが配置され、今後、地域との交流がより進んでいくと思う。 ・今年度は、創立150周年を軸として教育活動を組まれ、この取り組みが子どもたちの自主性や行動力、やる気をより育て、学習面にも生活面にも生かされたのではと思える。 ・「明日もまだ行きたい」と思う学校となるためには、こどもにとって居場所があること、互いに認めあえる、そのような状況ではないかと思う。広小の様々な取り組みによりその成果が少しずつ出てきているのではないだろうか。また、「広谷っ子育て隊」が今後も拡充していくことが望まれる。 ・子供のモチベーション向上につながる取組が実施されており、自分の為だけではなく、他人を思いやる気持ち行動となり、その結果は800にのぼる実績数で確認が出来る。 ・地域とも体験や運動を通じた活動を通し、相互に支えあう学校づくりが出来ていると思う。 ・創立150周年というところで、コロナ禍やインフルエンザの流行などもある中で教職員の方々に、最大限できる事として、全校生徒で1つの事を実施するのではなく、各学年単位でメモリアルフェスティバルという形で記念イベントを実施された結果からも、教職員、地域、保護者で連携の取れた学校運営が出来ていると判断できる。 ・新型コロナウイルスなどのウイルス対策については、気の緩みとは考えておらず、気を付けていても感染してしまう事はあると思うので、それは落ち度としては捉えていない。 ・全体的な動き、実績をふまえてA評価という結果に異存はない。

<p>確かな学力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体性は育っているか。 児童のコミュニケーション力、表現力は高められているか。 学習タイム(チャレンジタイム)等により、基礎・基本の定着が図られているか。 ICT機器(含タブレット)を活用して、学習活動の充実が図れたか。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級活動や児童会行事などでは、<u>児童が主体的に、自主的に取り組む場面が多く見られた。</u>150周年とのリンクで充実した。各教科の指導においては、今後も児童の「主体性」や「対話力」を伸ばす指導のあり方について研修を継続する。 ファシリテーションの研修をしたこともあり、<u>児童のペアやグループでの話し合いが大変スムーズに効果的に行われている。</u>引き続き、研修の成果を授業に生かしていきたい。 学習タイム(チャレンジタイム)では隔週で国語、算数に取り組めた。取組内容(計算問題・音読・視写・長文読解など)を校内で統一し、工夫しながら全校生の基礎・基本の力の向上に努めることができた。朝読書の時間は静かに読書に取り組み、子ども達も読書の時間を楽しみにしている姿が見られた。 1人1台の環境を生かして、実際の授業にタブレットを多く導入し、魅力ある学習活動が展開できた。<u>タブレットを使って話し合ったり、まとめたりする学習が増えるなど、児童の活用能力も確実に向上している。</u>また、試用と寄付で設置した電子黒板は、授業の可能性を広げるものとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> • もれない気配りがよい。 • ICT機器の活用は、今後もますますデジタルグローバル社会において必須のものとなっている。学習の一層の推進をお願いしたい。 • いろんな学習タイム(チャレンジタイム)に、一人一人の基礎学力にも取り組んでいる姿が見られた。 • 今年度は、創立150周年を軸として教育活動を組み、この取り組みが子どもたちの自主性や行動力、やる気をより育て、学習面にも生活面にも生かされたのではと思う。 • まだまだ若い先生が増えていく。全職員の授業研究もあるが、隣組の授業を覗きにいくとか、日常的に研修ができたと思う。 • ファシリテーションの取り入れは注目すべき点ではあるが、中、高学年であっても定着するまでは、コーディネートする先生方の苦労が多いと思われる。目の前の成果にこだわらず、少しずつ継続していくことが重要と考える。 • クラスを分けたハーフ授業において、その分かれ方が興味深かった。自分の適性(希望)を主張しやすい環境となっていることは良い状況と思われる。 • 日常の学校風景や買い物時にも学年関係なく児童同士がコミュニケーションを取っている姿を拝見している。それは日常の学校生活で上記の事が実施出来ているからだと考えており、左記に記載のある取組が活きていると考える。また授業風景を参観した際にも、勉強が難しくなる高学年については、クラスを分けた少人数制で授業を行っている事や、児童にアンケートを取り、どんどん進めたい子、じっくり進めたい子に合わせた授業を取り入れるなど、確かな学力定着を意識した指導をいただいていると考えている。 • タブレットについても今後の社会でPCを活用する機会が多くなる為、先行してPCを活用した授業は良いと考えている。これは学校に対してではないが、タブレットが非常に重く低学年や中学年の児童には負担が高いように感じる。またPCの動作も遅く、待ち時間が出る部分については、ある程度のスペックを確保したPCにし、授業時間を有効にできるように出来ないかと考える場面もある。 • 学校としての取組に対してはA評価から異存なし。
<p>豊かな心</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの人権が大切にされていたか。 子どもの良さががんばりが多く見られたか。 学級活動、児童会活動、異年齢集団活動など子どものつながりや活躍が見られたか。 いじめや問題行動等に適切に対応し、一人一人に寄り添った丁寧な指導が行えたか。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年間の研究をベースに、思いやりのある温かい学校づくりと、いじめなど人権課題に対応できる子どもの育成に努めてきた。また、人権に関する作文や標語、ポスターの応募など、機会をとらえて取り組みを進めた。<u>人権に対する感性が育っている児童の姿も見られる一方で、児童同士での言動によるトラブルが多いように感じる。些細な言葉でも、教師側の意識を高く持ってアンテナをはるようにしたい。</u> 「ののくさ賞」「情独賞」などの顕彰や、きら星や各学級での良いところ・がんばり見つけ等を通して、自他の良さががんばりが輝く学校づくりが実現している。 児童の発想を大切に、学級活動を進めた。また「広小ギネス」や、「縄跳び大会」「リクエスト放送」など、各種委員会の企画、5-5交流、異年齢交流など、<u>子どものつながりや活躍が見られ、自己有用感や自尊感情を育むことができた。</u> いじめや問題行動が起こったときには、素早くそして、組織で対応できた。「いじめアンケート」8回「生活アンケート」2回を実施し、トラブルや不安の早期発見、早期対応につとめた。<u>特別な支援や配慮を必要とする児童が複数おり、今後も地道で粘り強い支援が求められる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> • 徳を積むことに頭が下がる。 • 思いやりのある温かい学校づくりと、いじめなど人権課題に対応できる子どもの育成は、人格形成において大事なことなので、引き続き推進された。 • 子ども達が豊かな心になることは、難しいとは思いますが、一人でも多くの子も豊かな心になればと思う。そのまま継続できたらと思う。 • 子どもどうしのトラブルは必然だと思う。そのトラブルこそがチャンスと捉え、学級全体で丁寧に指導していくことが心を育て、生き方に繋がっていくと思う。 • 児童同士の言動によるトラブルは避けたいところではあるが、自己主張ができること、それに対して承認するまたは異論を寄せられることも本来の姿でもあると思われる。内容にもよるが、トラブルがなければ良いというだけでもないのではないかと。この点は児童同士だけではなく、保護者にもいえることと思われる。 • いじめは、なかなか表にでてこないものなので、出現しているものは氷山の一角と考えられる。しっかりアンテナをはっていただきたい。 • 児童同士の言動によるトラブルに対しては、SNSやメディアなどで不適切な言動が日常的に情報として入手できる時代になっているので、その中で生徒同士のトラブルは抑制したくても、抑制出来ない世の中になっていると考えている。そのような中でも、学校として人権に対しての教育は、作文やポスター、標語など相手を思いやる気持ちの育成の取組推進で最大限できる事を実施していただいている事は確認出来ている。これは学校だけでなく、世の中全てでどのように抑制すべきか考えないといけない問題であり、学校評価がB評価という事に対して、PTAの会長としてはA評価と変更すべきかと考える。

<p>健やかな体</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと一緒に遊ぶことができたか。 子どもの体力や運動能力の向上が図れたか。 睡眠、排便、歯磨きなど、健康に関する指導が進められたか。 教科や給食、栽培・調理などの体験等を通じた食育を推進できたか。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多くの教師が、大休憩や昼休みに子どもと共に遊ぶ姿が見られた。遊びを通して、人間関係を把握し、子どもとの信頼関係や安心感を醸成することができた。 体づくりプログラム「やっばーアップ」「リズムジャンプ」を体育の授業の導入部に設け、筋力、持久力、瞬発力、柔軟性などを高めることができた。 また、週に一度「わんぱくタイム」として清掃無しで長い休憩時間を設けるなど、児童が語り広場や運動場に出て体を動かして活発に遊ぶことができる時間を確保した。 5分間走り続けるマラソン記録会に変更したことで、練習の時から自分の目標に向かって努力し続ける児童が多かったのは大きな成果である。 健康指導では、定期的な目の体操や歯磨きチェック、「ねるねるウィーク」による睡眠指導など、保護者の協力も得ながら進め、成果があった。 給食センター、栄養教諭と連携し食育を進め、食に対する関心を高めることができた。家庭科では、お節料理、恵方巻など、旬の食材や行事食を積極的に取り入れることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 短時間に変更されたマラソン記録会に多くの成果が期待される。 記録会の変更はよいと思う。 食育指導は最も大切に感じられる。今後とも続けられることが望ましい。 「わんぱくタイム」を設けるなど休み時間に、外で元気いっぱい体を動かす外遊びが全校児童で習慣となるよう、今後も取り組みをお願いしたい。 多くの教師が休憩時間に子どもと共に楽しく遊ぶ、体を動かすなど、健康面や食に対する楽しみなどをよく考え、取り組まれていると思う。特に子ども達と教師との信頼関係を築くことで、子ども達の安心感が生まれることは大切である。体づくりでは、安全面も取り入れ、一人ひとりの能力も考え、マラソン記録会に変更したことはよかった。 マラソン大会に参加しない児童も減ったという「5分間走り続けるマラソン大会」は、良い発想だなと思った。これなら体育の時間に行える。いろいろ工夫できる。 スポーツクラブに入っている児童と、そうでなく児童の体力差が気になる現在、基礎的な体づくりは、ぜひ続けてほしい。 睡眠指導は今後も継続していただきたい。 熱中症対策は全国様々な対応がされている。養父市もしくは広小独自の基準も検討できるのではないだろうか。 教師の方だけでなく、校長先生や教頭先生も一緒に子供と遊ぶ姿を確認出来ている。体力作りについても、マラソン大会の構想変更を実施いただき、各個人に合わせた目標設定と実行にて、個人に合わせた体力作りを実施出来ていると考える。 給食についても、旬の食材を用いた行事食を取り入れていただき、児童に対して食文化を伝える取組も実施いただいている事は、非常に良い取組であると考えます。 A評価に異存はない。
<p>学びを支える仕組みの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが安心して、生き生きと学校生活を送っているか。 安全点検、避難訓練など、児童の安全を守る取組は進められたか。 特別支援教育の理念に沿って、要支援児童への適切な指導や支援が行えたか。 養父校区小中一貫教育や広谷認定こども園との連携を推進できたか。 	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> いじめやかからいなどに対する毅然とした指導、定期的なアンケートに基づく相談、児童会や学校行事など体験活動の充実など、子どもが安心して生き生きと生活できる環境を実現できている。 しかし、一部、要支援児童の関わりにより他の児童が安心して過ごせないなどの事案が発生したのは反省点である。今後も、一人一人の児童に寄り添い、プラスの声掛けを増やすなど、安心して過ごすことのできる学校をめざしていきたい。 地震や火災を想定した避難訓練、定期的な校内施設の安全点検、登下校時の立ち番指導、警察による交通安全教室などを実施し、児童の安全確保に努めた。 特に、休憩時間や掃除時間の訓練、遭難者を想定しての訓練など、避難訓練については、さまざまな状況を想定して実施できたのが成果である。 校内ケース会議を定期に開催し、様々な課題を共通理解を図り、個別の支援を要する児童への対応について見直しをもって進めることができた。また、市教育委員会、特別支援学校、巡回相談、スクールカウンセラー等、関係機関と連携しながら個別の支援を推進することができた。 今後も、支援についての情報を共有し、全校的に特別支援教育を進めていきたい。 小中一貫教育では、中学校登校による中学校生活への意欲付けと心の壁の緩和ができた。部会のテーマを「ノート指導」「家庭学習」としたことで、焦点化した話し合いができた。 こども園とは5-5交流や体験入学などの交流、ケース会議への参加など、円滑な接続を意識して連携を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間の本能として、小さいもの、弱いもの、色の違うものに対して、上から目線が起きやすい。恐と教育で防ぐことを学んでいくことが大事である。どこでも、そのような社会でも見られる状況である。油断なく自配りと配慮が必要である。 校内ケース会議を定期に開催され、様々な課題の共通理解を図り、個別の支援を要する児童への対応について適切に進めておられる。今後も、各関係者、関係機関と連携しながら推進していただきたい。 ここの内容はとても難しいところだと思う。どんな時でも今後も、一人一人の児童に寄り添い、プラスの声掛けを増やす、子ども達が安心して過ごすことができるよう継続し取り組んでほしい。 どの子も安心して過ごせることは学校生活で何より大切なことだと思う。児童を見る目線や、適切な指導を学校全体で推進してほしい。 避難訓練での抜き打ち実施は、効果がある。今週中に実施する予告と誰かが逃げ遅れる児童を置いてみるのも臨場感があるかもれない。 中学校での不登校生が多いと聞く。6年生の中学校登校とのかかわりはどうなのだろうか。 要支援児童の関わりについては、人員の確保が必要と思われる。 特別支援教育は、人権教育の充実とリンクさせて、より一層進めていただきたい。 1番重要視しないといけない安全の面に対しては、通常の避難訓練だけでなく、さまざまなシーンを想定した訓練を実行したり、登下校時の立ち番など、いろんな観点で安全教育を実施いただけている事は、非常に良い取組であると考えます。 からかいや誹謗中傷に対しては毅然とした指導をいただけている事も重々理解している。 集団生活になるので、いろいろな人間があり、1人1人の個性や特性を考慮した生活環境を創る事は、大人の世界でも難しいと思う。トラブルのない生活環境を創る事が全てではなく、そのトラブルの中で、トラブルを起こした本人達が何を得たか、どうすれば良かったのかなど考える機会にもなるので、トラブルゼロの環境が全てではないとも考える。重要視すべき点は、そのトラブルに対してどのような支援ができるかだと考えるので、その点が大事だと思う。 評価点のつけ方として、C評価はおおむね良好という事ですので、その結果に異存はなし。

<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教材や人材を活用した学習が進められたか。 P T A、学校運営協議会、ボランティアグループ等との連携が進められたか。 オープンスクール、学校・学級通信の発行、ホームページ等で学校の様子を伝えられたか。 家庭と連携して「そうあんくんの日」の取組を進められたか。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然、文化、産業などを教材として学習を進めることができた。アゲハ蝶の産卵、福井建設さんの申し出による大型重機の見学や試乗、浅黄豆の栽培や豆を活用した豆腐づくりなど、多様な教育活動を展開できた。 学校運営協議会での協議をふまえて、教育活動を進めることができた。P T Aによる「夜の学校探検スタンプラリー」など、150周年事業に積極的に協力いただけたことに感謝している。「広谷っ子育て隊」の協力を得て教育活動を進めることができたのは成果である。今後も、内容の広がりをめざしたい。 参観日やオープンスクールにより、保護者に児童の様子を見ていただくことができた。ホームページの「広小トピックス」をほぼ毎日、268回更新し、学校の様子を発信することができた。毎日200件近い閲覧者があり、評価アンケートでも満足していただいていることが分かる。学校により、学級通信を定期的に発行して情報発信ができ、学校に対する信頼を得ることができた。 今年は、取り組み内容や得点配分を自分で決めるスタイルにしたところ、前向きに取り組む児童が増えた。家族ぐるみで取り組み様子がかがえ、取り組みが浸透している。第4水曜日の「スーパーそうあんくんの日」の取り組みも定着し、自分のやりたいことに没頭する、家族とのふれあいの時間を持つなど、趣旨が十分に果たされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの事柄がたくさんの人によって、支え合って行われているはずばらしいことである。 学校と地域、自治協議会との連携により授業、活動することは、地域の宝である子どもたちを、地域で知ってもらう機会を増やすこととなる。地域にオープンスクール、HPなどにより、学校を知ってもらう機会を増やしていくことは大事である。HPをほぼ毎日更新されていることは、ずばらしい。 地域の方との協力を得ながら体験したことで、子ども達の成長につながったと思う。夜の学校150周年は、なかなか夜の学校を探検することは経験できないことであり、子ども達に心に残る思い出になったと思う。そうあんくんの日もきめ、子ども達の成長にもつながった。 学校関係者として、年に3回の授業参観と運動会、児童の登下校の様子くらいしか児童と接しないので、学校からのお便りはありがたい。 毎年書いているが、「そうあんくんの日」は、何かのきっかけにもなるので、続けていってほしい。 保護者、地域住民に興味を持っていただくと共に、地域のこどもは地域で育てるといような意識をすこしずつ醸成していくことが重要と考える。 1番良いと考えるのは、そうあんくんの日の得点配分を個々の目標での得点配分に見直された点であり、その個人が取り組もうと思う事の配点となった事で、親側としてもメディア禁止などの強制ではなく、決められた目標時間内で終えようねなどの言葉かけに変わり、親と子の双方に無理なく、ストレスが少ない取組の日に変わった事だと思ふ。それにより、前向きに取り組む児童が増えた事が、やはり以前までの取組は双方に難しい取組であった点であった事の証明であり、それが改善出来ている点は非常に評価すべき項目かと思ふ。 P T Aとも協力した夜の学校探検スタンプラリーにも、積極的に協力いただき、大変高評価をいただけた点も学校の協力があったからだ感謝している。 評価結果について異存なし。
<p>教職員の資質向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教員としての資質や実践的指導力を高めるために研修ができたか。 体罰をなくし、児童と心の通い合う温かい人間関係が構築できたか。 会議や研修の効率化、情報や物品の整理など、業務改善は図れたか。 超過勤務時間を縮減し、ワークライフバランスを実現できたか。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に研修を進め、授業改善に努めている。代表者による模擬授業を行うことで、研修の成果が大きく向上するなど、実践的指導力を高めることができた。また、ファシリテーションを生かした研修は、教師の指導力を高めることにつながった。ベテラン教員の指導のもと、若手教員も積極的に研修に励み自己の向上に努めている。校内O J T が機能し、様々な教育活動に生かされている。 体罰やハラスメントに関する研修を行い、自他のあり方について意識の向上を図った。また、児童への声かけや称賛の付箋メモ、日記や作文へのコメントなど、子どもとのつながりを深める取組を日常化させた。 会議や研修は1時間15分以内に設定、事前の文書準備や協議のポイントを赤字で表記など効率化を図った。物品の管理状況を常に見直し、分かりやすく使いやすい配置にするとともに、使ったものは所定の位置に戻すなど管理の在り方を徹底して、環境を整えた。 水曜日に加え、金曜日を広谷フライディとして定時退勤に設定し、勤務時間の適正化を推進した。また、年休取得も平均18.8日で付与1/2を全員が達成し、計画的に休暇を取得している。そのため、教員のワークライフバランスの充実と子どもと向き合う時間の確保ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 総じて子どもに対する思いが通じると思う。続けていってほしい。 勤務時間の適正化については、成果をあげられているが、今後も取り組んでいただきたい。教職員のワークライフバランスの充実と子どもと向き合う時間を確保するために必要である。ファシリテーションを生かした研修で、教師の指導力を高める成果を出されているので、引き続き推進されたい。 会議や研修はとも大切なことだと思ふ。教育は、学校で育つというように、教育の学び合いが子ども達の笑顔が生まれる。これからも変化を恐れず、挑戦し、笑顔で活気ある広谷小学校であってほしい。 授業研究はもちろん、タブレットや電子黒板の活用、外国語の指導などなど先生方も大変だと思ふ。広川は若い先生も多く学びあえる環境であるので、日常的に学び合える体制を整えてやっていって欲しいと思ふ。 先生方のワークライフバランスの充実を最優先としていただきたい。外部講師の積極的な登用（民間、地域、小中学校連携等）。 コロナ禍やインフルエンザの流行で学級閉鎖などの多発する環境の中、職員の方々についても、授業の予定時間変更などで苦慮されたと思ふ。そのような中でも生徒の前で苦しい表情を見せず、笑顔で授業や様々なイベントを実行されている姿を確認しているし、感謝している。また一般的に勤務時間が多いと言われている教職員の勤務時間に対しても定時退勤日の増加や年休取得も18.8日の実績となっており、教職員のワークライフバランスの確保が出来ている点は評価すべきと思ふ。 総じて学校評価に異存なし。